

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100163		
法人名	有限会社ハンドツーハンド		
事業所名	グループホーム「ここあ」前橋		
所在地	前橋市朝倉町947-1		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ゆったりと一人一人のペースで暮らしている。その人らしく生活してもらう為職員が取り組んでいる。理念に有るよう心地いい居場所であるよう取り組んでいます。 医療面では、24時間医師、看護師と連絡がとれ連携体制が整っています。ご本人やご家族が希望した場合は看取りをさせて頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の理念は、あったかい笑顔・声・心を基本としており、全職員間で「どのようなケアをしたいのか」レポートし、発表の機会や会議等で共有し実践につなげている。超高齢者で介護度の高い人が多いなか、食事の支援においては、ミキサー食などの利用者にあわせた食事形態の提供、誤嚥予防に体位の工夫等、看護職員と介護職員が連携して、常に優しい笑顔と言葉かけに努め、利用者が一緒に安全で食事が楽しめるよう積極的に取り組んでいる。利用者一人ひとりの思いや意向の把握については、返事が曖昧で会話の困難な人の気持ちに寄り添い、家族に確認して好きな音楽(童謡・昔の歌)をインターネットで探し音楽を流したところ本人が歌を歌う場面につながるなど、管理者と職員は、日々利用者がその人らしい暮らしを続けられるよう、個別的な支援をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を共有し利用者様が地域の一人として生活を送れるように取り組んでいる。会議などで全員で確認意識を高めている。	理念について、全職員間で「どのようなケアをしたいのか」レポートし発表する機会があり、意識づけがされている。そうしたなか、食事介助などの場で心のこもった言葉かけ、笑顔で介助等、具体的なケアを共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	毎年、町内の納涼祭などの行事に参加している。散歩や外気浴で外へ出ているとき行きかう人と挨拶を交わしたりしています。回覧板が回ってくるので地域行事や地域清掃などにも参加出来ています。	隣近所の人から農作物の差し入れがあったり、地域の方がゲートボールの帰り際に声をかけてくれたり、幼稚園児の訪問も時々ある。町内の夏祭り、敬老会より招待の行事には、利用者と一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時見学の受け入れています同時に認知症の相談も受け入れています。介護予防活動ポイントにも登録しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は5回の予定でしたが、4回の実施となりました。家族の参加が困難になって来ましたが、出来る限り参加の呼び掛けをしています。	運営推進会議には、利用者、利用者家族、地域住民の代表、民生委員等がメンバーとして参加していない。会議開催は年4回で、会議内容は報告や情報交換での話し合いとなっている。	運営推進会議の目的や意義をもとに、会議内容や参加メンバー等をふくめ開催について検討し、運営推進会議が開催されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の会議や研修会に参加。困難事例等があった場合は、電話や訪問で常に相談できる。	困難事例の相談や利用者の入居、介護制度の変更、各種届出などは、管理者が出向き市担当者から詳細に指導を受けている。市職員の「記録について」の講義予定もあり、円滑な協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社で毎年研修をし職員の理解を深めている。新人職員には入職時のオリエンテーションで説明しています。会社全体で取り組んでいます。	身体拘束や虐待については、外部講師等からの研修を全職員が受け徹底理解を図り、身体拘束及び言葉の拘束はしていない。具体的な制限行為をする時は、家族に説明し同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社で毎年研修し職員の理解を深め業務に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修は行っていませんが、会議などで説明をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず入所前に施設見学をしてもらい、契約時には家族に説明を行い、納得して頂いてから契約、解約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族で面会の頻度は違いますが、面会時には必ず利用者様の状況を伝える様になっています。全職員が家族との関わりを持てる様担当制に取り組んでいます。玄関にアンケートボックスを設置している	利用者本人からは入浴や食事時に、家族からは手紙や面会時に、意見や要望を聞き、何でも気軽に話せるような雰囲気づくりを大切にしている。出された不満・苦情等は会議で話し合い、サービスの質の確保・向上につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見・不満・苦情を気軽に話せる関係作りをしている。課題があった場合は会議で話しあう。	管理者は、職員が、意見や要望を気軽に話せるよう努めている。利用者の褥瘡手当について、看護師を中心に改善点を検討しケアの実践につなげている。個人のスキルアップ研修の希望についても、積極的に受け入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。代表者へ意見や希望を聞き反映出来るよう努めている。 会社全体で親睦会を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修を年間計画を立てて実施している。また連絡協議会に加入しており研修に参加している。商工会議所の新人研修OJTを導入し実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入しており、会議や研修に参加している。グループホームの交換研修にも受け入れや派遣を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に利用者様と面談し状況を把握し職員に情報を周知し入所後、早く馴染んで頂けるような工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と会い、施設の見学をして頂きご家族からの状況や要望を聞いて居室の空間作りや日々の過ごし方を考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に必要なとする支援の把握に努めている。満床の場合はお持ち頂くか他のサービス検討への対応もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的にサービスを提供するのではなく日常の中で必要な事も利用者と一緒に、学んだりする関係も築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談した時や必要時には状況の連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の対応で友達や親戚の家に行かれる利用者は以前いたが今ではほとんどなくなっている。関係が途切れるような事はこちらからしていない。友人、知人の面会時には、ゆっくり過ごして頂く様に配慮している。	親戚や旧職場の知人が1ヶ月～3ヶ月に1回位のペースで面会に訪れているが、訪問者も高齢者なので、関係継続が困難になってきている。毎週1回、家族が迎えに来て外出できるように支援しているケースもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動や季節行事などで利用者同士の関係を把握。利用者が孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	違う施設へ入所されてしまった入居者がいますが退所後に継続して関係を保てていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で何気なく思いや希望を聞いている。担当者がいる為会議や、毎日の申し送りなどで意見を出し利用者様の思いを検討しています。	日々の関わりの中で声かけをし、返事が曖昧な方には、顔の表情の変化や成育歴を参考に家族へ確認し、把握している。会話困難な利用者に、音楽が好きなおことからインターネット上の動画音楽を流したところ歌い始めたこともあり、思いに寄り添い実践につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴や暮らし方などを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを利用者の状況に合わせて行うよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向を反映した介護計画を立てている。変化があった場合は現状にあったプランに変更。	介護計画作成担当者から事前に提示された立案書をたたき台にして、全体会議で話し合った結果をもとに、最終的には介護計画作成担当者が作成している。利用者受持ち担当制が導入されているが、作成段階での各職員の参画度が少ないように思われる。	日々の関わりを通しての職員の気づきやアイデアを、介護計画やモニタリングに活かせるよう検討されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス利用時の様子や気付いた事を個別記録に記入。会議等で情報を共有しながらケアするよう努め介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況で柔軟に対応しようと努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番に利用者表を提出し何かあった場合でも対応して頂くよう要請。地域住民にも散歩や行事などで顔をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先している。緊急な場合は事業所のかかりつけ医を受けられるよう支援している。今は全員嘱託医での対応となっている。	事業所の嘱託医による月2回の往診、年1回の健診を実施している。耳鼻科、眼科ほかは嘱託医の紹介状により対応している。緊急時は、協力医療機関を受診となっている。歯科は訪問診療がある。送迎は職員が対応して、受診結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。介護職との相談や情報交換で健康を維持し適切な医療に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした場合は早期に退院できるように情報交換や相談に努める。退院時にはスムーズに受け入れるよう体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に緊急時の対応や終末期に対して説明を行っている。本人や家族が望みGHでも可能であればターミナルケアも実施する。利用者様だけでなく家族にも寄り添い支援	入居時に、重度化や終末期に向けた事業所の対応について、書類を参考に説明し、家族の同意を得ている。医療連携と支援体制づくりが整備されている。家族や利用者の意向を踏まえ管理者、看護師、職員が連携を取り、確認しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の心肺蘇生やAEDの使い方は講習会や研修で習得している。定期的に今後も行って行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。近隣住民への協力体制は整っている。会議の前に訓練を年3回出来る様担当を決め行っている。	避難訓練を年3回(昼間2回・夜間1回)実施している。夜間訓練は、勤務者1人を想定して、利用者と共にやっている。近隣住民(地主関係者)とは日常的交流があり連絡を密にしているため、協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや気持ちを尊重した声掛けやケアを心掛けている。	日常の会話は、利用者の目の高さでするようにしている。食事の時は、ゆっくりと、その人に合わせて食事ができるようにしている。排泄時誘導は、カーテン越しから小さな声で言葉かけしたり、不必要な肌の露出を避けるよう心がけたりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る様に働きかけている。意思表示の難しい利用者には表情や仕草で読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望や体調、ペースに合った過ごし方が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が訪問。自分に合ったカットや髪染めを行っている。ハンドマッサージなどプロの方に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助が多くなり今は職員と利用者、別で食事を摂っている。片付けは利用者に手伝っていただいている。	摂食・嚥下障害の人へは、ミキサー食などの食事形態の提供、食べやすい姿勢の確保することで、他の利用者と同一食卓で一緒に食事ができるようにしている。誕生日や四季折々の行事にあわせた食事、外食時には希望をとるなど、楽しむ食事を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取のチェック表により職員が食事量を把握している。水分はいつも誰でも飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方には声掛けや見守りで対応。介助が必要な方には一人ひとりに合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が一人一人のパターンを把握。失敗があってもさりげなく処理をしている。	排泄チェック表を参考に、2～3時間毎にパット交換ではなく、トイレへの排泄誘導をしている。リハビリパンツを着用している人には、昼間はトイレ誘導し、夜間はポータブルトイレを使用する等、排泄パターンに応じ支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や繊維質の食物に気を使っており、毎朝のラジオ体操を行っている。医師との連携で薬を使う事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一度入浴できる支援をしている。時間は決めてしまっているが希望があれば入浴できるようにしている。	ゆったり、ゆっくり、時間を定めず、入浴してもらうことを大切にしている。介護度の高い方には、入浴用のチェアベッドを利用して、肩まで湯を体感できるように支援している。皮膚の状態を観察し、希望に応じ入浴剤やゆず湯を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、ゆったりとした時間を設け安心して休めるようにしている。日中も希望や状況に応じて休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は飲むまで確認している。変更があった場合などは全員が共有出来る様に申し送りノートやホワイトボードを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や楽しみを利用者と一緒にさがしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	どんな事をしたいか、どんな場所に行きたいか希望を把握。夜間でも行きたい場所があった場合は希望に添えるようにしている。	天気が良い日には、事業所周辺の田園風景の場所へ、車椅子の方も一緒に外出している。利用者家族も参加して桜見物など、四季折々に応じて積極的に戸外に出かけている。家族の協力を得ながら、毎週自宅へ一時帰宅ができるよう支援している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の所持はしていない。管理出来る利用者が今後いた場合には自分で使えるように支援をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合、電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座敷に掘り炬燵がありテレビを見ながらくつろげるようになっている。季節の花や飾りつけを行い季節感を感じて頂けるようになっている。	廊下は広く、不必要な物品は置かれていない。居間には、休息できる大きなソファを配置している。畳の部屋には、掘りごたつがあり、テレビを見たり将棋ができるくつろぎの場所となっている。換気が行われ、不快の音や臭いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分のテーブルの席は半数の利用者が把握している。声掛けにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込んでほしいと入所時をお願いしてるが現実には殺風景になってしまっている。自宅での延長上で生活を考えている。	居室の入口には、大きな字で書かれた手作りの表札が掛けられている。部屋には、家族写真、人形、感謝状等が置かれている。利用者が安心、安全に過ごせるように、個別に応じた居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に表札を掲示している。		